

1. 獣医学部学生の外国語能力向上に関する取組（2021年度以降入学者に適用）

1) 外国語能力の到達目標

- ・学部卒業時の英語力の到達目標を、獣医学院および国際感染症学院に進学する際に必要な外部試験成績（TOEFL iBT 55点相当あるいは他の英語試験での相当点）とする。

2) 外国人能力を向上させるために実施する取組

- ・2年次に実施される基礎獣医学科目試験の中に、専門用語を英語で尋ねる問題を含むなど、英語表記を理解させる機会を増やす。
- ・IVEP参加者に事前の英会話トレーニングを実施する。
- ・学部卒業時のIVEP体験者を50%程度に設定する。

2. 学生の国際性を汎用できた実例

（実例1）

学生Aは5年次に交換留学プログラムを活用してタイに3ヶ月間留学し、現地獣医学部で臨床実習に参加した。現地では臨床技術を実践的に学ぶとともに、英語での授業やタイの学生との交流によって、語学力や異文化理解力を深めた。留学前の準備として、英語教育担当の外国人教員から英語の授業を受けた他、留学後も同教員による希望者に向けた英語のクラスを継続的に受講し、英語力を磨いた。6年次には卒業研究の一環としてミャンマーへの疫学調査に参加し、フィールドワークを含む海外での研究活動の基礎を培った。学生Aはこれらの海外経験や語学力をもとに海外大学院への入学を許可され、国際的な畜産業の問題解決に貢献する研究者になるべく、現在は進学に向けた準備を行っている。

（実例2）

学生Bは1年次より新渡戸カレッジに在籍し、留学支援英語や国際交流科目により実践的な英語を学んだ。また、国際交流サークルに所属し自らイベントを企画するなど積極的に留学生との交流を深めた。翌年春にはシンガポール・ベトナムへの研修プログラムに参加し、現地の大学生と交流を深めたり、駐在中の日本人が実際に働く現場を見学した。2年次には、英語の授業に加え中国語の講座も履修しさらなる異文化理解に努めた。学部での専門的な英語の授業にも参加し始め、4年次には学部の派遣研修により英国で2週間、最先端の獣医療や日本とは大きく異なる動物福祉のあり方について学んだ。さらに5年次には、1ヶ月半タイに交換留学し、現地獣医学部で産業動物の臨床実習に参加した。学生Bはこれらの経験により語学力が大きく向上した他、国内外に外国人の友人が増え現在も交流が続いている。また経験を生かして、日本の、そして将来的には国際的な畜産業の向上に貢献する臨床獣医師になるべく就職に向けた準備を進めている。